

QlikView Server のインストール手順

本ドキュメントは、QlikView11 の以下の製品について、Single サーバマシンでのインストール手順を記載した資料です。

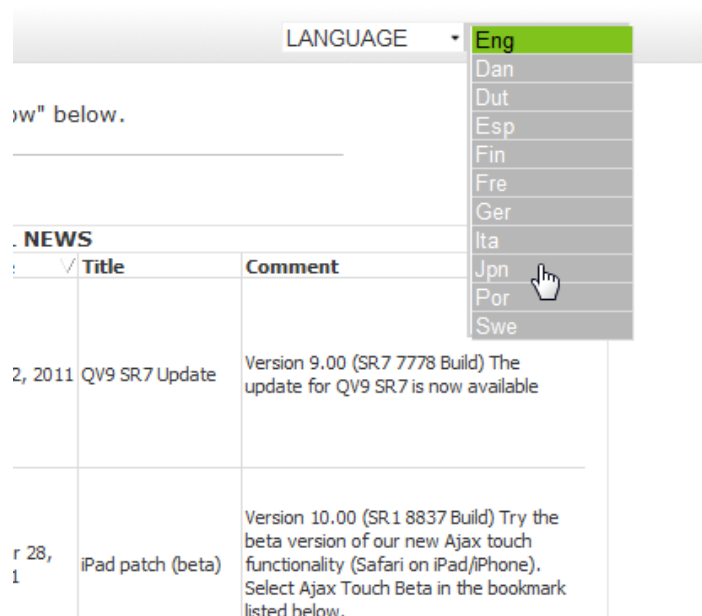
1. QlikView Server
2. QlikView Publisher

QlikView Server のインストールプログラムを以下のダウンロードサイトから取得します。

(ダウンロードサイトには、QlikView Account でログオン後にアクセスしてください。)

www.qlikview.com/download

ダウンロードサイトで、英語の初期表示画面を日本語に変更するには、画面上の LANGUAGE を Eng から Jpn に変更して下さい。日本語表示画面に切り替わります。



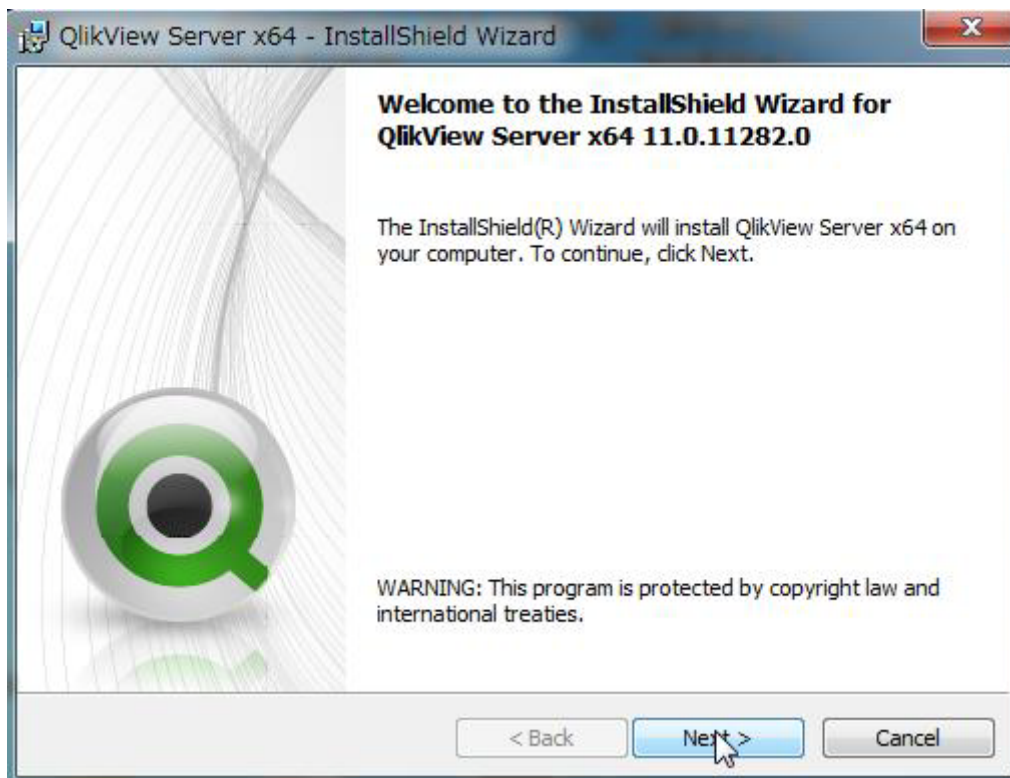
TIPS : Download QlikView のサイトでは、インストールプログラムだけでなく、リファレンスマニュアルや、リリースノート等のドキュメントがダウンロードできます。

Server タブを選択し、画面の Filters で以下の各項目を選択してください。

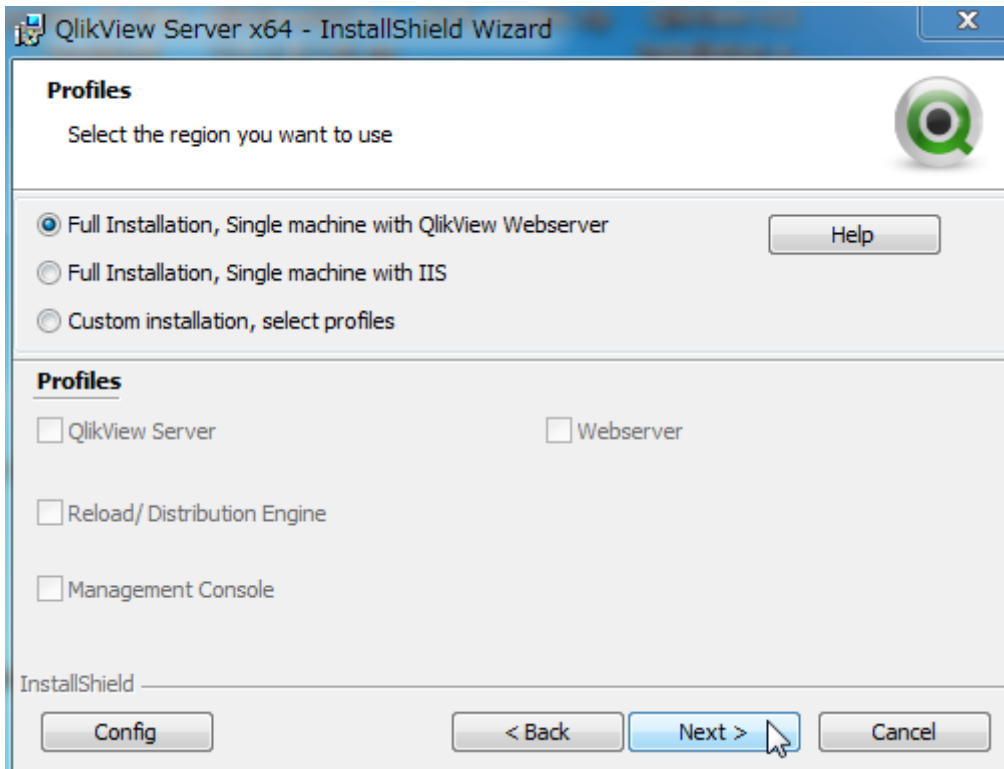
選択項目	選択値
バージョン	11.00
リリース番号	V10 の個別リリース番号が表示されています。特に制約がない場合には、最新の SR を選択してください。
カテゴリー	Installation program
OS	お使いの PC 環境により、以下の値を選択。 32bit 環境の PC Windows x86(32bit) 64bit 環境の PC Windows x64(64bit)

インストールの手順

ファイルのダウンロードの確認画面が表示されたら、ファイルの実行または保存を選択して、インストール用の exe ファイルを実行してください。次に、実行の確認メッセージのポップアップ画面が表示されますので、[実行する]をクリックします。

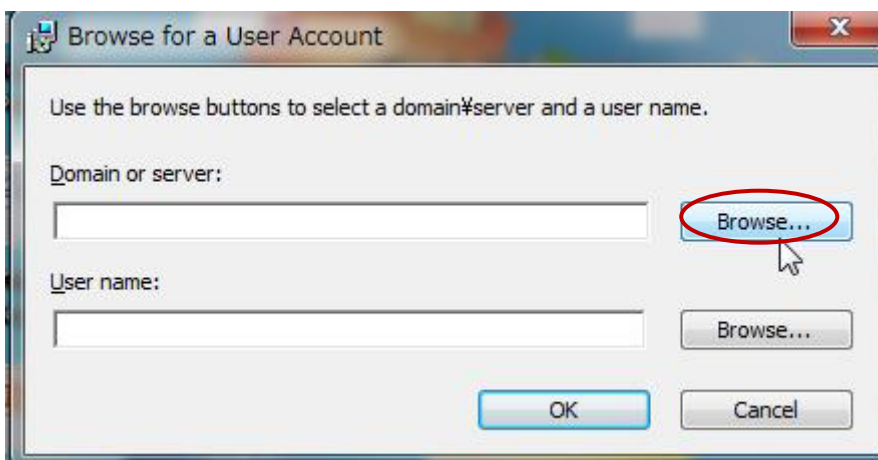


インストール用のウィザードが表示されますので、[Next]のボタンをクリックしてください。言語、License Agreement、User 情報の入力の確認の画面のあとに、以下のインストールのウィザードでは、“Full Installation, Single machine with QlikView Webserver”を選択します。

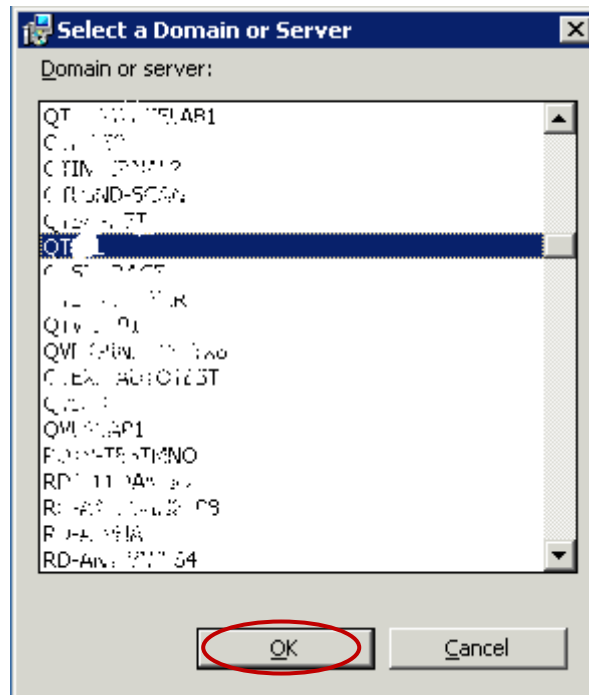


TIPS:複数のサーバーに分割してインストールするケースでは、“Custom installation, select profiles”を選択します。この場合には、Profiles の選択が有効となり、サービスごとにインストール対象を選択する方式となります。

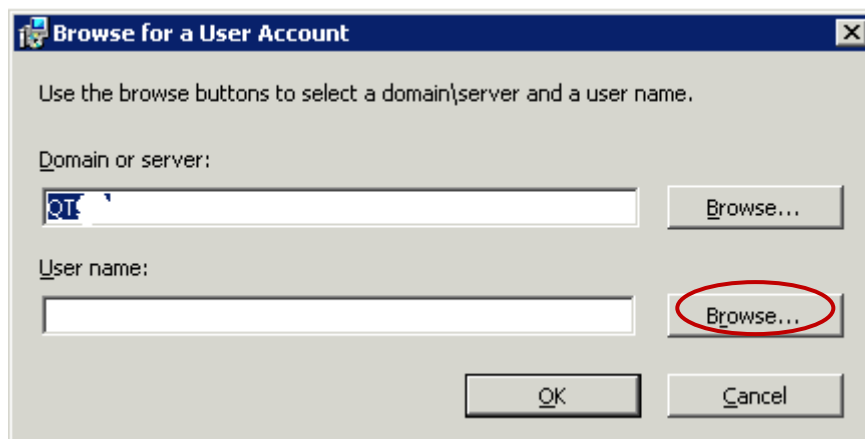
QlikView Server では、管理用の特定のユーザー名とパスワードが必要になります。[Browse]をボタンをクリックします。



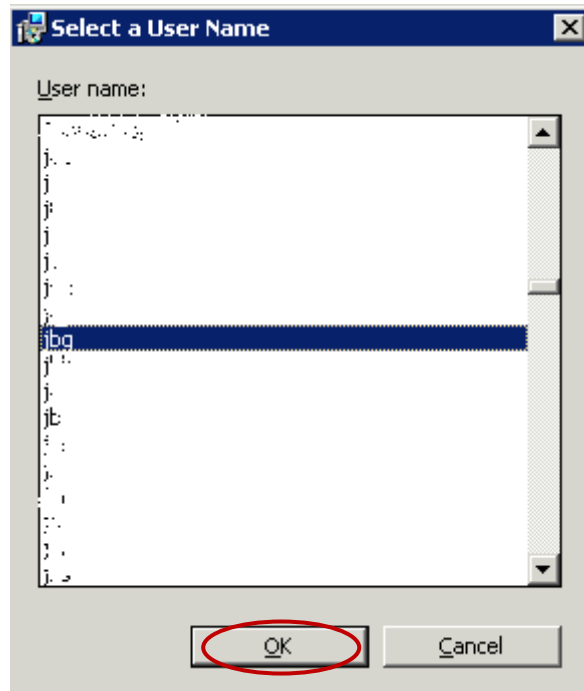
一覧からドメイン/サーバーを選択して、[OK]をクリックしてください。



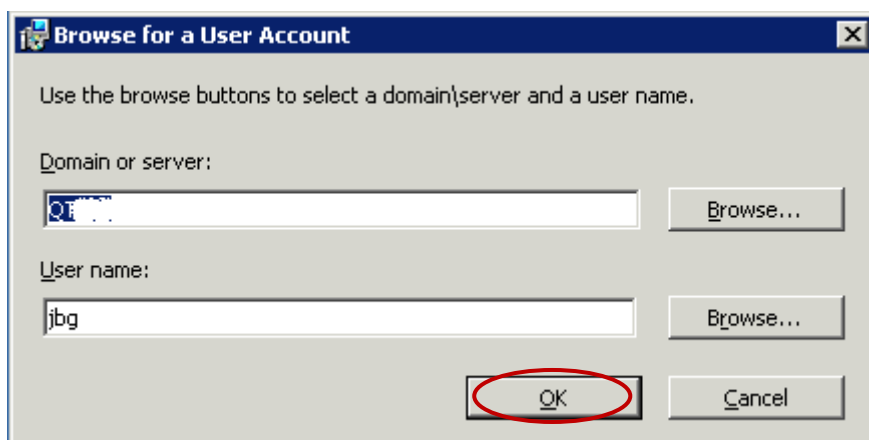
画面に、選択されたドメイン/サーバー名が表示されます。次に User Name の横にある[Browse]のボタンをクリックすると、ユーザー名の一覧が表示されます。



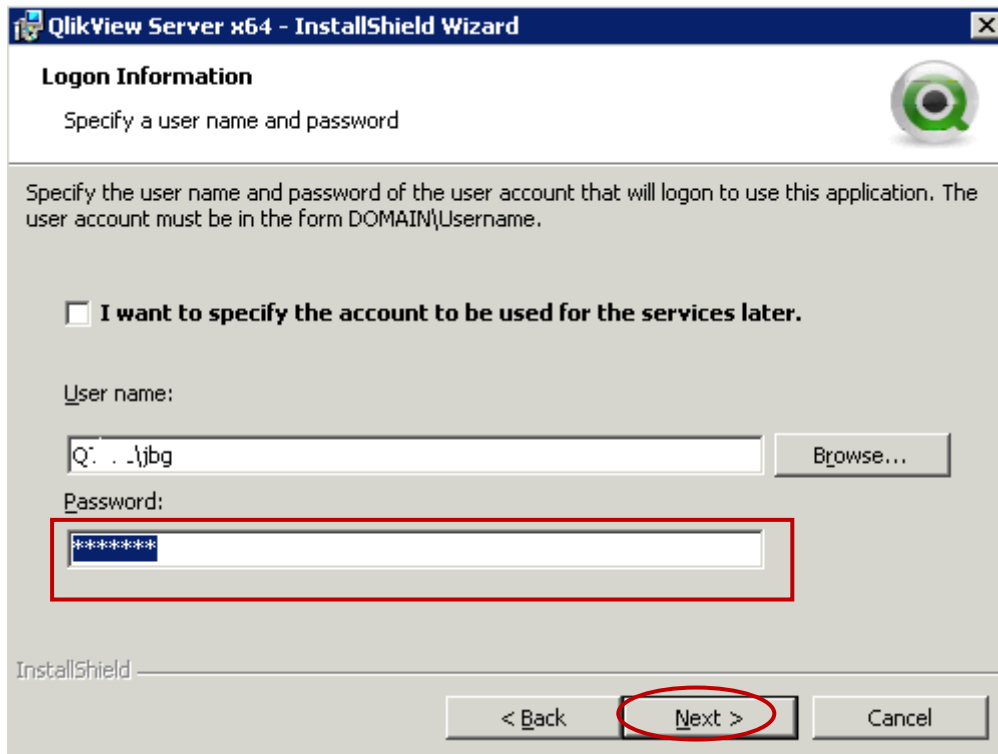
一覧からユーザー名を選択して、[OK]をクリックしてください。



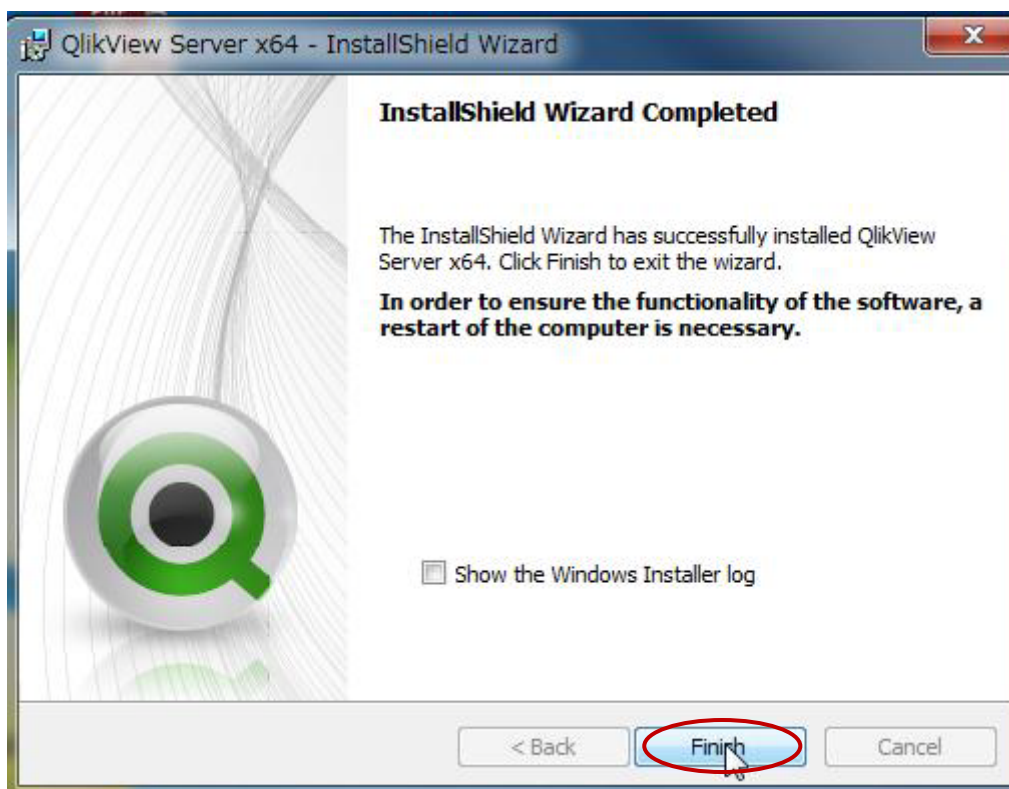
画面に選択されたユーザー名が表示されます。[OK]をクリックしてください。



パスワードを入力し、[Next]をクリックしてください。



次の画面で、[Install]のボタンをクリックします。



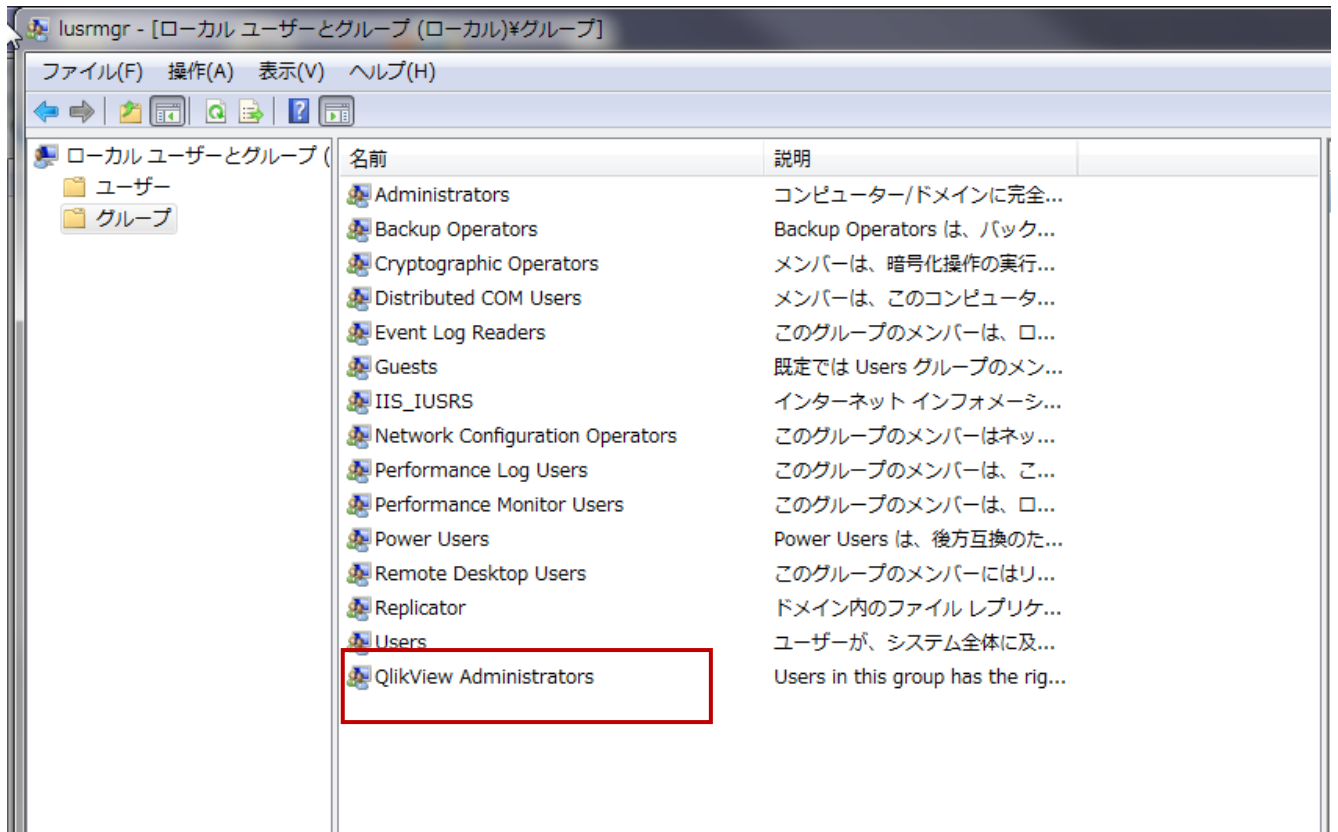
QlikView Server のインストールが完了しました。[Finish]ボタンをクリックしてウィザードの画面を閉じます。

インストールの完了した後に、PC の再起動を行ってください。

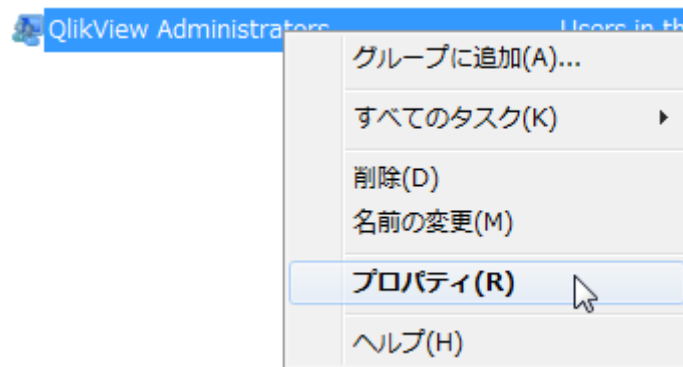
再起動後に、コントロールパネルの管理ツール > [ローカルサービスの表示]の画面で、Windows のサービス一覧が表示し、サービス一覧から Qlikview に関連するサービス名を確認し、状態が開始されていない場合には、サービスの開始を行います。

名前	説明	状態	スタートアップの種類	ログオン
Qlikview Directory Service Connector				
Peer Networking Grouping	有効...		手動	Local Se...
Peer Networking Identity Manager	有効...		手動	Local Se...
Performance Counter DLL Host	リモ...		手動	Local Se...
Performance Logs & Alerts	Perf...		手動	Local Se...
Plug and Play	ユー...	開始	自動	Local Sy...
PnP-X IP Bus Enumerator	PnP...		手動	Local Sy...
PNRP Machine Name Publication S...	この...		手動	Local Se...
Portable Device Enumerator Service	リム...	開始	手動	Local Sy...
Power	電源...	開始	自動	Local Sy...
Print Spooler	遅延...	開始	自動	Local Sy...
Problem Reports and Solutions Con...	[問...		手動	Local Sy...
Program Compatibility Assistant S...	この...	開始	自動	Local Sy...
Protected Storage	パス...	開始	手動	Local Sy...
Qlikview Directory Service Connector	Kee...	開始	自動	.¥TR08
QlikView Distribution Service	The...	開始	自動	.¥TR08
Qlikview Management Service	Hos...	開始	自動	.¥TR08
Qlikview Server	Hos...	開始	自動	.¥TR08
Qlikview Webserver	The...	開始	自動	.¥TR08

Windows のコントロールパネルの中の[ローカルユーザーとグループ (ローカル)]の画面で、グループのフォルダをクリックし、Qlikview Administrators が追加されていることを確認します。



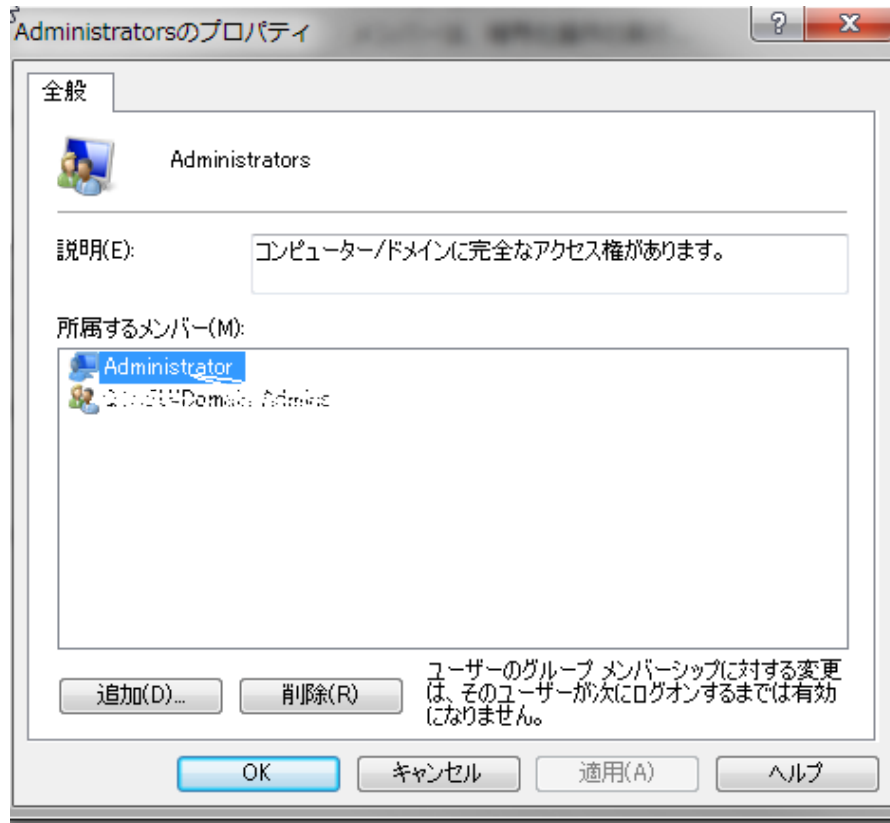
QlikView Administrators を右クリックし、プロパティの行を選択します。



インストール時に指定したドメインユーザーが QlikView のアドミニストレータとして登録されていることを確認します。



同様の手順で、ドメインユーザーが Administrators として登録されているかについても確認します。



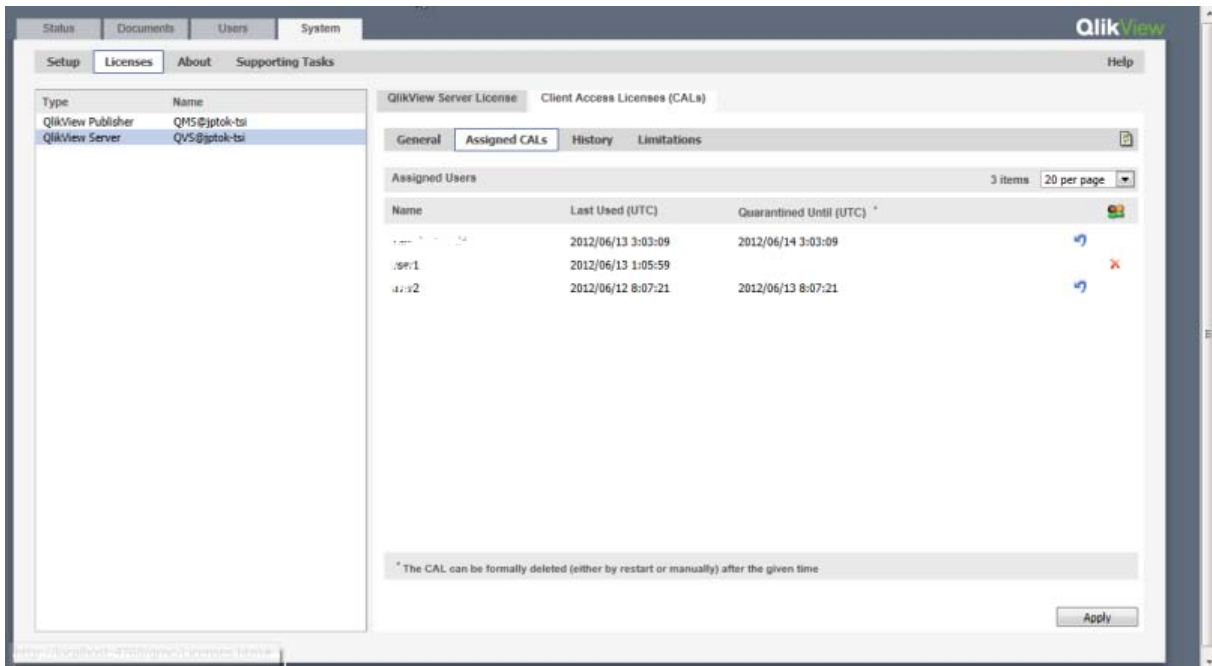
プログラムのスタートメニューから、Qlikview Management Console を選択します。

プログラム (6)

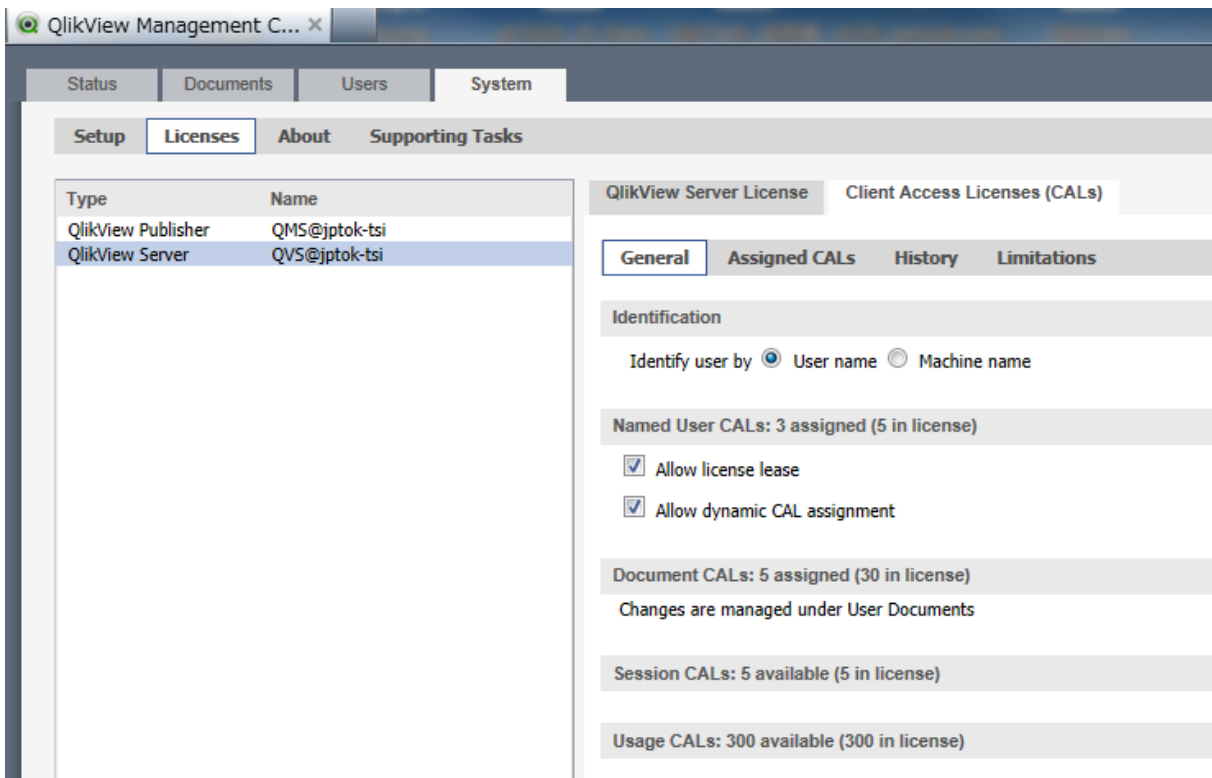
- QlikView 11
- QlikView AccessPoint
- QlikView Management Console [h...

最後に、ライセンスキーの設定を行います。[System] > [Licenses]を選択します。QlikView Server を選択し、serial number と Control 番号、Name、Organization を入力し、Apply License のボタンを押します。

Publisher を利用する場合には、QlikView Publisher についても、同様の手順で入力してください。



TIPS** Dynamic CAL assignment(動的なCALの割り当) や、license lease の機能を利用する場合には、チェックボックスが ON になっているかを確認してください。



QMC(QlikView Management Console)概要

< 各コンポーネントの概要 >

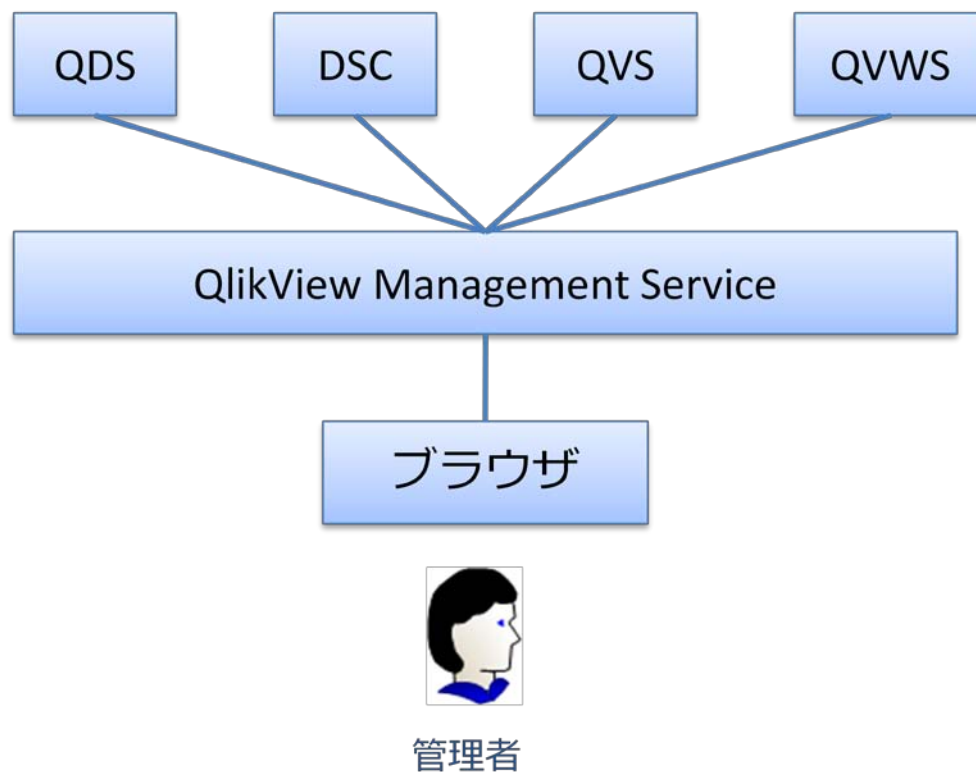
QMS – QlikView Management Service – すべてのサービスと通信、Management Console の GUI のホスト

QDS – QlikView Distribution Service – ファイルの作成 & 配布

DSC Directory Service Connector – ユーザー情報を管理

QVS QlikView Server – エンドユーザー用のファイルのホスト機能

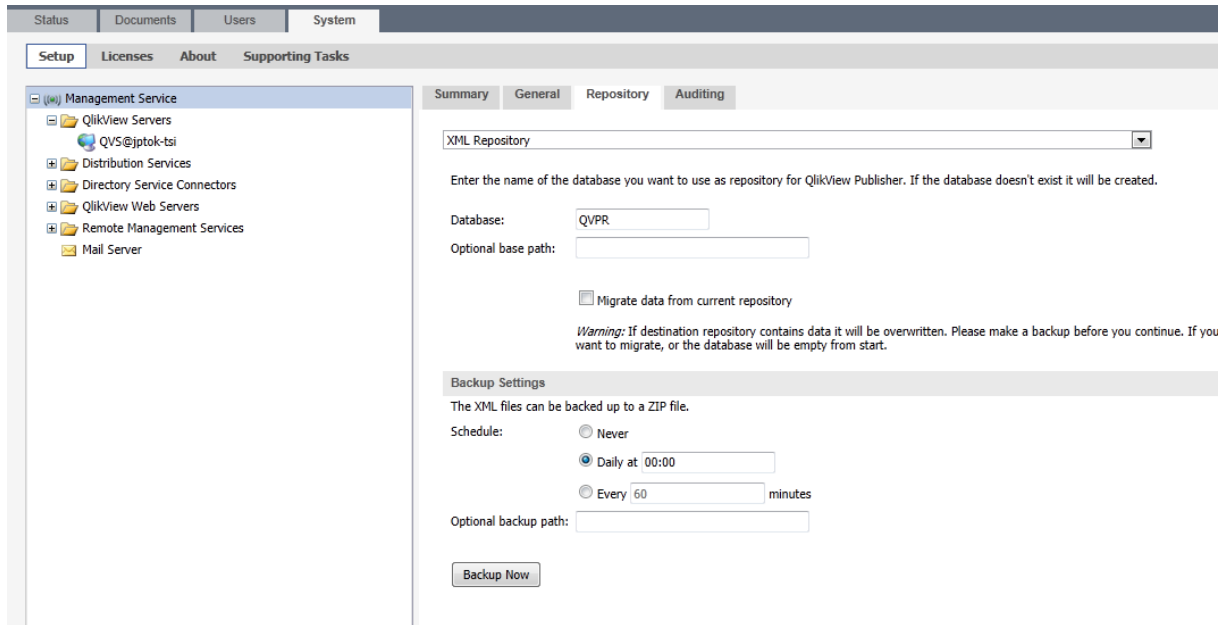
QVWS QlikView Web Server – AJAX ファイルの Web サーバー、AccessPoint、QVS のロードバランス



QlikView Management Service

1. Repository

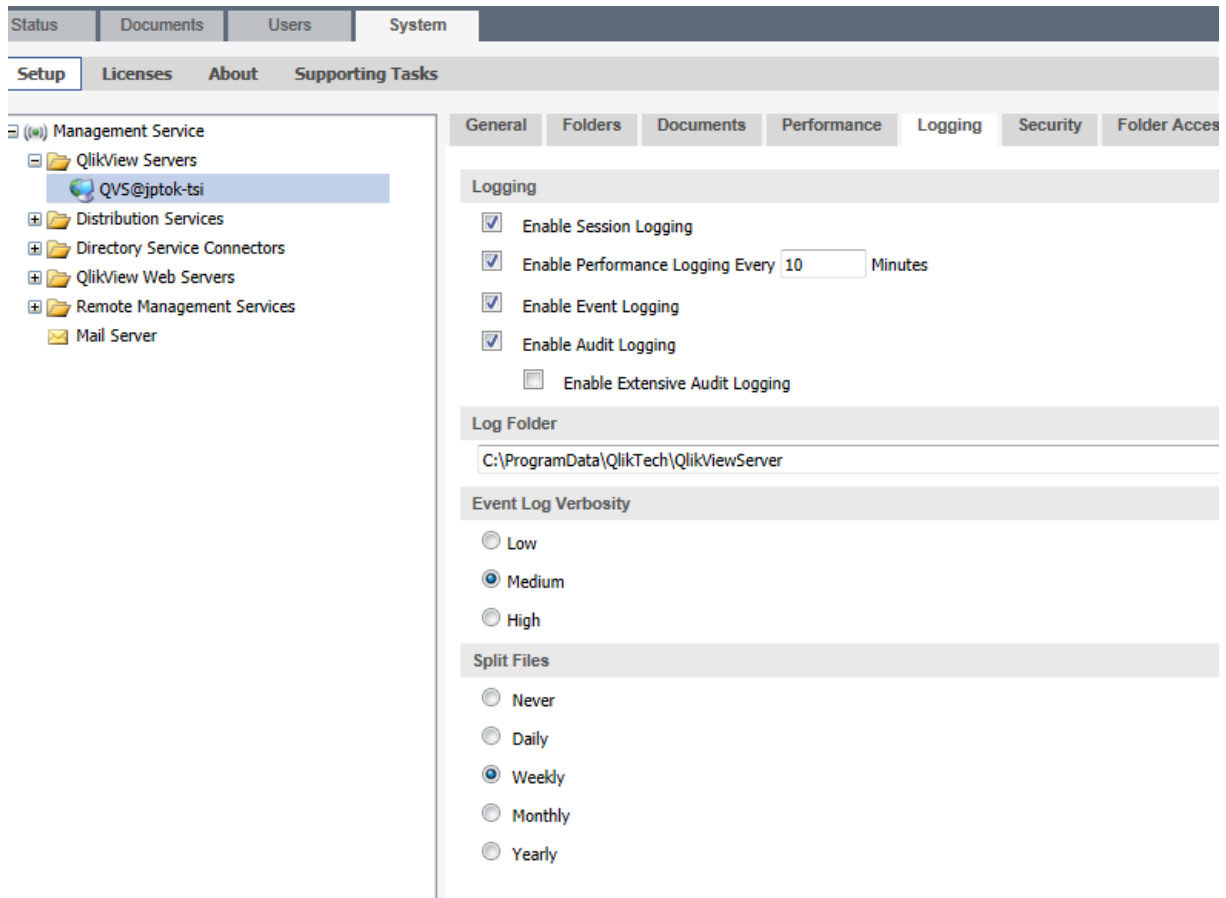
QVPR(QlikView Publisher Repository) は、Publisher ライセンスが有効な場合にのみ、利用可能です。QVPR は、各ジョブタスクの情報が格納されたデータベースです。



QLIKVIEW SERVERS

1. Logging

- A) "Enable Audit Logging"のフラグをオンにすると、選択の動作や個別ユーザーのナビゲーションを記録する監査ログ (Audit log)が取得されます。
- B) "Enable Session logging" のフラグをオンにすると、セッション接続の内容に関するログが記録されます。セッションセッションの開始時ではなく、終了時に記録されます。
- C) "Enable event logging "のフラグをオンにすると、イベントログが作成されます。
- D) パフォーマンスログが取得される間隔を分単位で指定できます。
- E) ログファイルの作成単位は、Split files の設定で指定します。



2. Folders

Access Point で表示させるファイルの格納場所を指定します。Folder で指定したディレクトリから QV server にマウントされます。

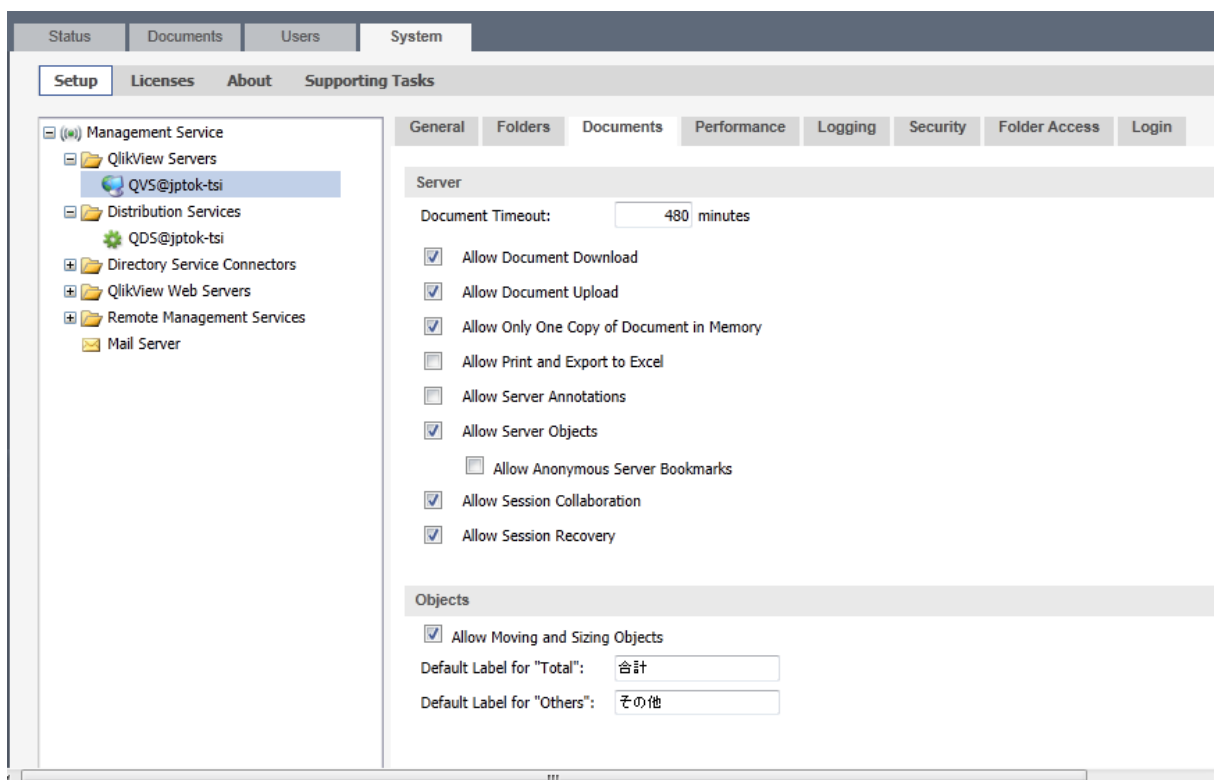
- A) Root Folder は、インストール時に example document の qvw が格納されているディレクトリにデフォルト設定されます。
- B) マウントフォルダに名前をつけ、Access Point 上でグループ化できます。
- C) Browsable のフラグを On にすると、QlikView デスクトップのサーバーから開くメニューから、ドキュメントを参照できるようになります。

TIPS** マウントフォルダの場所を分割すると、異なるグループや部門ごとに権限等を管理したり、PROD（本番）と DEV（開発）の用途でフォルダの管理を行うことができます。

TIPS** Root Folder と Mounted folder のパスは、重複しないように注意してください。重複して指定すると、Access Point で重複してファイルが表示されてしまいます。

3. Documents

ドキュメントのプロパティは、ほとんどが各ドキュメント内で管理されますが、一部の内容は QMC で設定できます。ここで加えられた変更は、全てのドキュメントに反映されます。

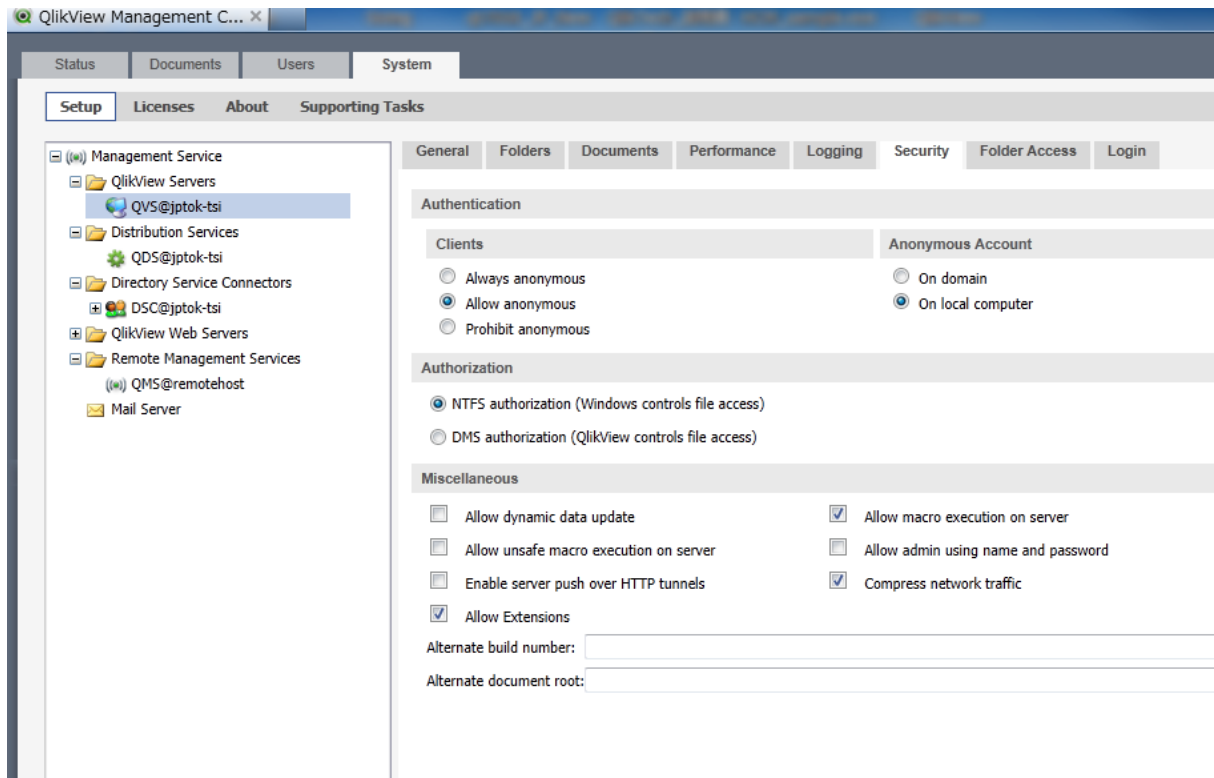


4. Performance

- A) CPU Affinity: チェックボックスを off にすると、プロセッサに制限がかかります。クラスター構成の場合に使用するケースがありますが、通常はデフォルト設定を変更しないでください。
- B) QlikView を専用サーバで利用している場合には、初期値を変更する必要はありません。
- C) Working Set: ヘルプテキストを参照してください。

5. Security

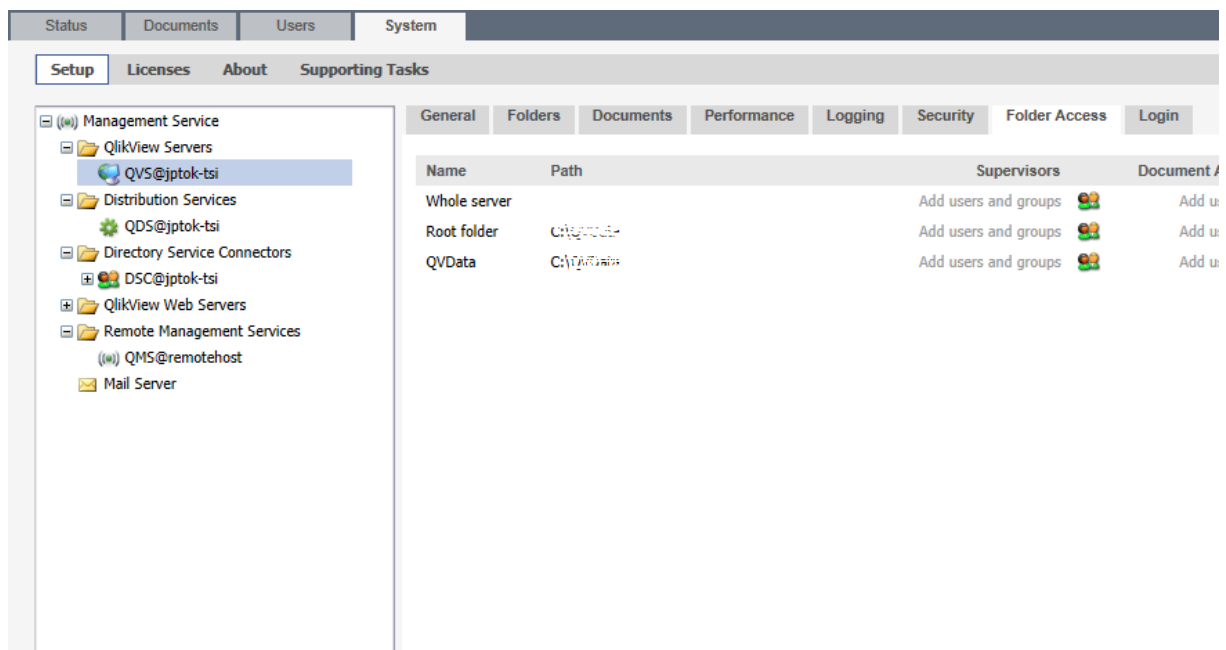
各種セキュリティ項目を処理する方法を設定します。



- A) always anonymous: 匿名認証を利用
- B) prohibit anonymous: 匿名認証を禁止。この設定を選択する場合には、仮想ディレクトリで指定されるセキュリティ設定と矛盾がないかを確認してください。
- C) 匿名ユーザ (anonymous) は、QlikView のインストール設定時に、IQVS_マシン名でユーザが作成されます。
- D) Authorization: 認証モードには、NTFS と DMS モードの 2 種類があります。いずれかを選択してください。NTFS を選択すると、QV Server は、Microsoft Windows NTFS 認証を利用します。DMS を選択すると、Q V Publisher Directory Service Connector(DSC)を通じて認証を行います。Document 設定で、Authorization タブが表示され、ドキュメントごとの設定ができます。(例：IIS では匿名を許可しているが、QlikView で禁止しているとエラーになります。)
- E) "Allow dynamic data update"は、別ライセンスが必要な機能です。初期値の OFF で設定してください。

- F) "Allow Unsafe Macro Execution on Server" : サーバーにおける安全でないマクロの実行を許可する場合には、このチェックボックスをオンにします。初期値は OFF になっています。
- G) "Enable Server Push over HTTP tunnel" : HTTP トネルを介して、ドキュメントの更新を許可する場合には、このチェックボックスを ON にします。
- H) "Compress network traffic" : 容量の大きなファイルをクライアントと QlikView Server 間の通信で圧縮する場合は、このチェックボックスを ON にします。
- I) "Allow Extensions" : エクステンションの利用を許可します。

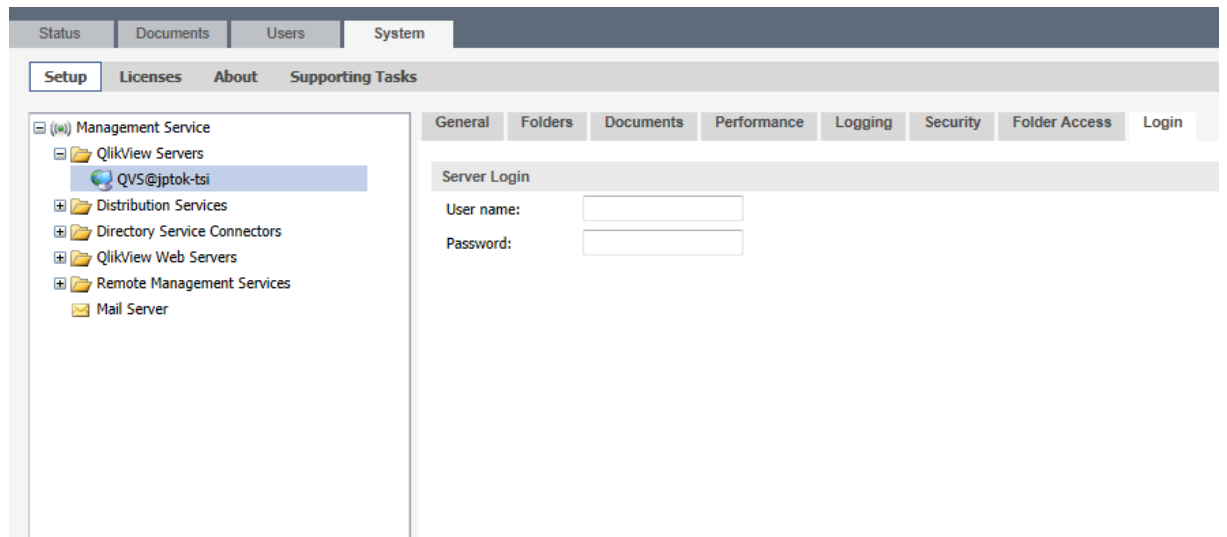
6. Folder Access



- A) Supervisor accounts: フォルダ上のすべてのドキュメントを閲覧することができるユーザーを追加できます。
- B) Document administrators: タスク作成の責任者を QlikView Administrator グループ以外のユーザーに委託する場合に、ここで、ユーザーを指定します。指定されたユーザーは、ユーザードキュメントまたはソースドキュメントに関連するタブだけにアクセスすることができます。

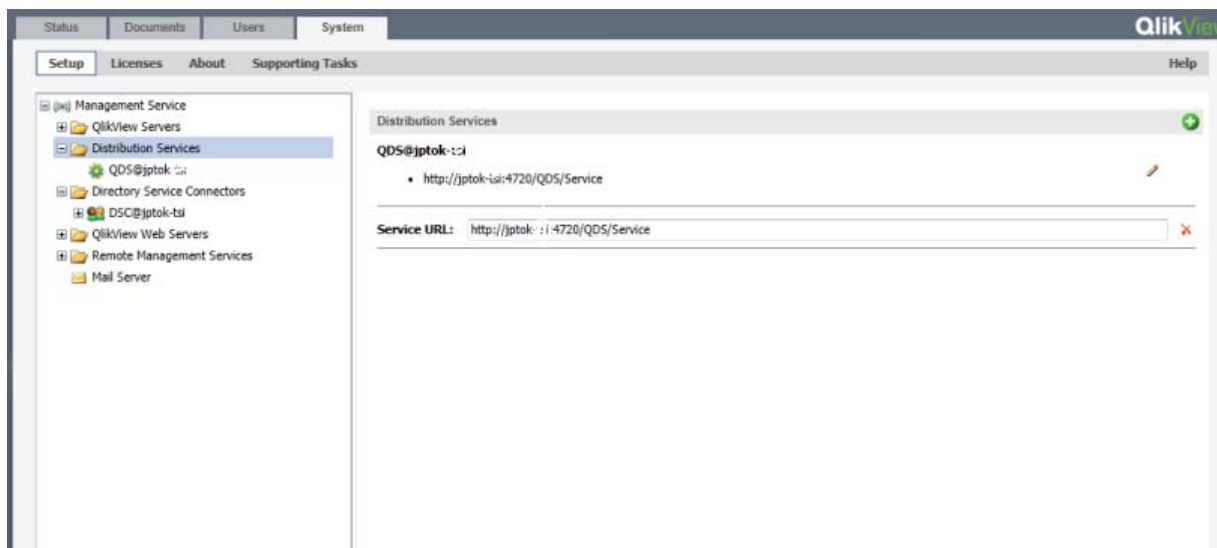
7. Login

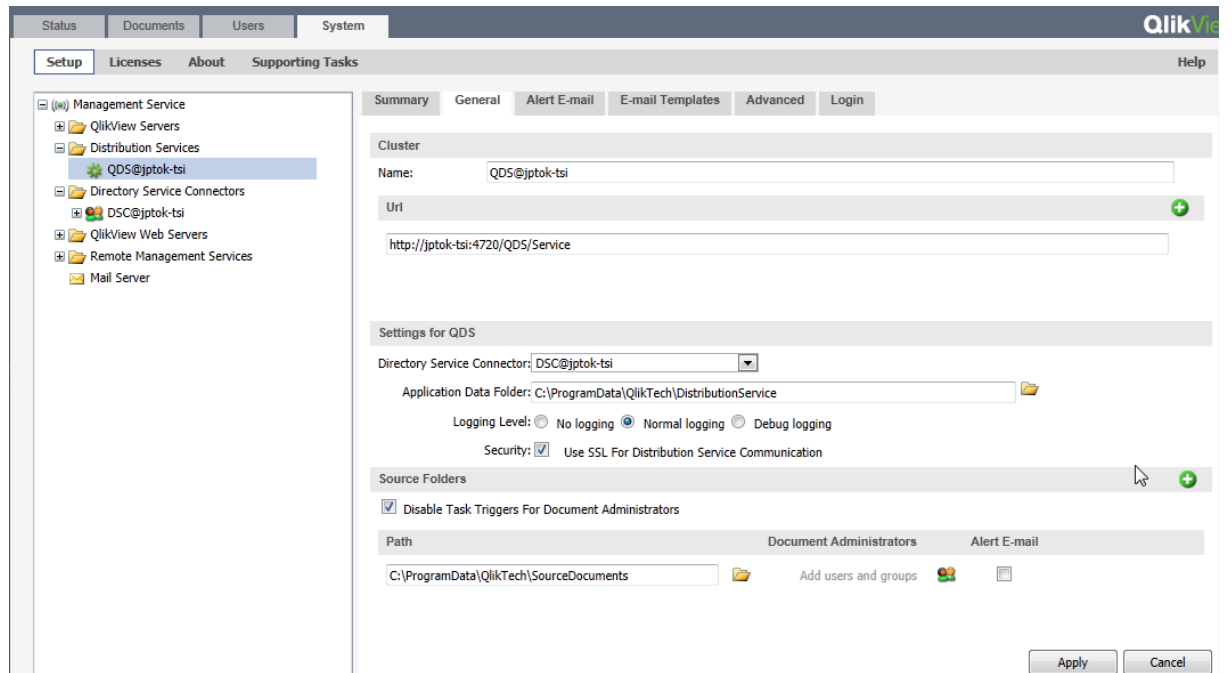
クラスタ環境で、複数のサーバーを管理する場合には、QV server の ID とパスワードを設定します。



DISTRIBUTION SERVICES

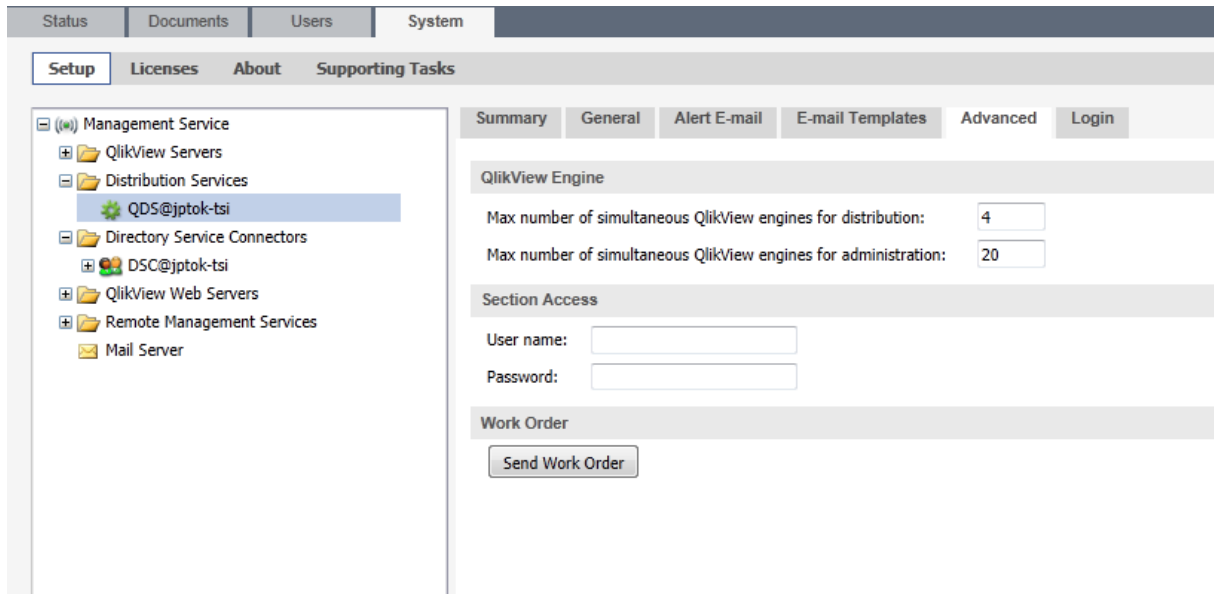
QDSは、QVファイルの配信の管理を行います。QV Publisherを利用すると、他のマシンで distribution serviceを実行することができます。





General Tab

- A) The application data folder ここDistribution Serviceがタスクを受信するフォルダのパスを指定します。複数のコンピュータ上で複数のDistribution Service を操作する場合のみ、設定を追加する必要があります。
- B) Security - 初期設定の1台のコンピュータ内での通信は、暗号化されるため、SSLの必要はありません。
- C) Disable task triggers For Document Administrator - このフラグをONにすると、管理者権限があれば、ドキュメント管理者によるタスクトリガーのスケジュールや実行を無効にすることができます。
- D) Source folders - ソースドキュメントへのファイルパスを指定します。複数のファイルパスを指定可能です。

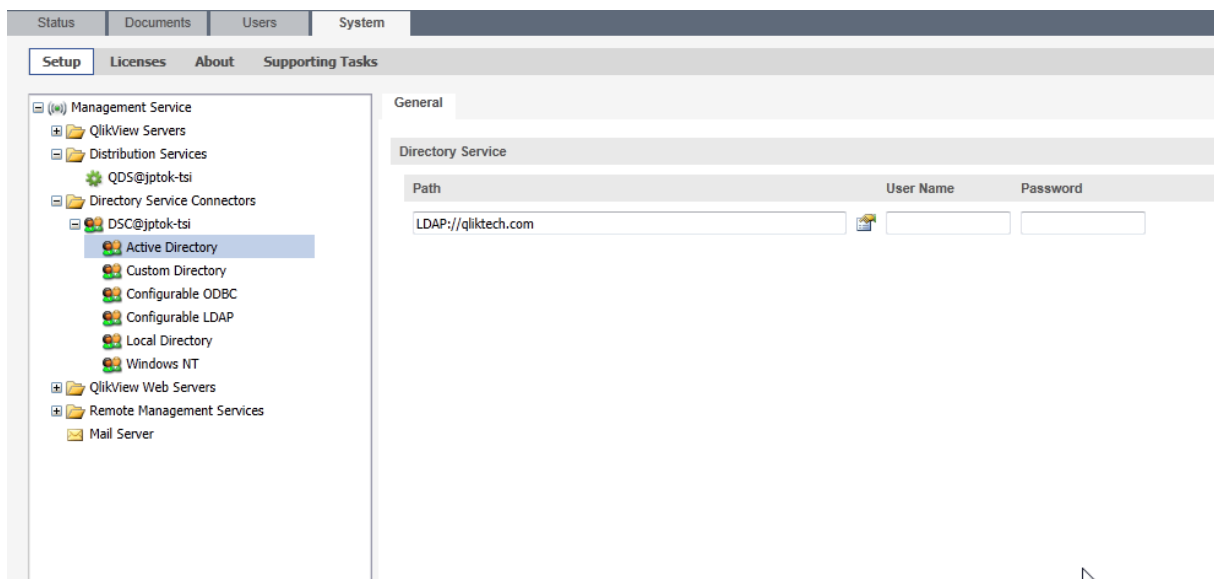


2 - Advanced

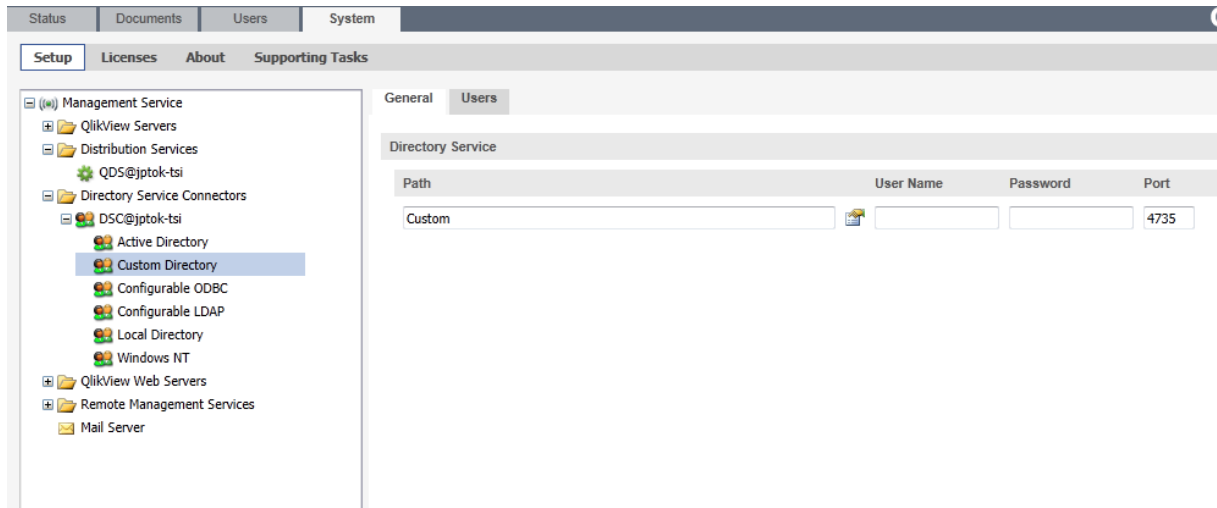
- Max number of simultaneous QV engines for distribution- QDSが同時にタスクを送ることができるQVBの数を設定します。
- Max number of simultaneous QV engines for administration- 同時にいくつのQVBをQDSがQMC上のタスク管理に使用できるかを設定します。

DIRECTORY SERVICE CONNECTORS

DSCは、利用環境におけるユーザーとグループを把握するディレクトリサービスとの接続を行い、認証情報をQVSとやり取りします。



1- Active Directory : AD構造を持つLDAPサーバーへのパス、ユーザーID/パスワードを指定します。必要に応じて、複数のADを組み合わせたことができます。



2- Custom directory : 認証でDMS modeを選択した場合には、Custom directoryの情報を利用して認証を行います。

A) Path – Custom directory のパスを指定します。QlikViewでは、以下のディレクトリに保存されたXMLファイルの仮想ディレクトリにこの情報を保存しているため、名前の指定のみでもかまいません。

“c:¥...¥...¥Qliktech¥DirectoryServiceConnector¥CustomDirectoryData.xml”

B) Users tab - Generalタブを設定し、変更をApplyボタンで反映すると、User tabが表示されるようになり、カスタムユーザーを追加できます。

C) Username and Password - カスタムユーザー名とパスワードを指定します。

3- Configurable ODBC : ODBCでアクセス可能なデータソースにユーザー認証情報を保存することができます。(例：ポータルユーザーの情報が、のRDBに保存されており、その情報を利用したい場合)

4- Configurable LDAP : Active Directoryと同様に、他のLDAPもconfigurableLDAP DSCに追加することができます。

5- Local Directory : ローカルディレクトリのService Connectorでは、同一のコンピュータ上のユーザーは、AD構造の一部でない場合でも追加できます。[+]アイコンで、異なるサーバー上の複数のローカルディレクトリを追加することもできます。

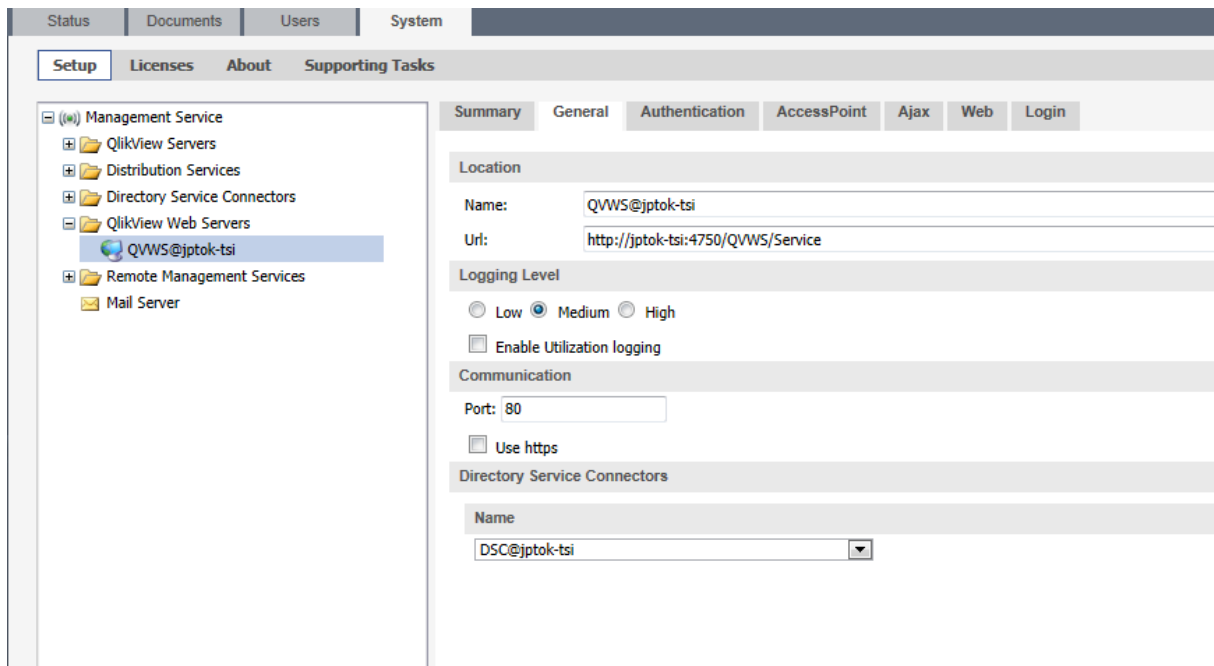
6- Windows NT : ローカルディレクトリと同様に、NTシステムのユーザーを追加することができます。

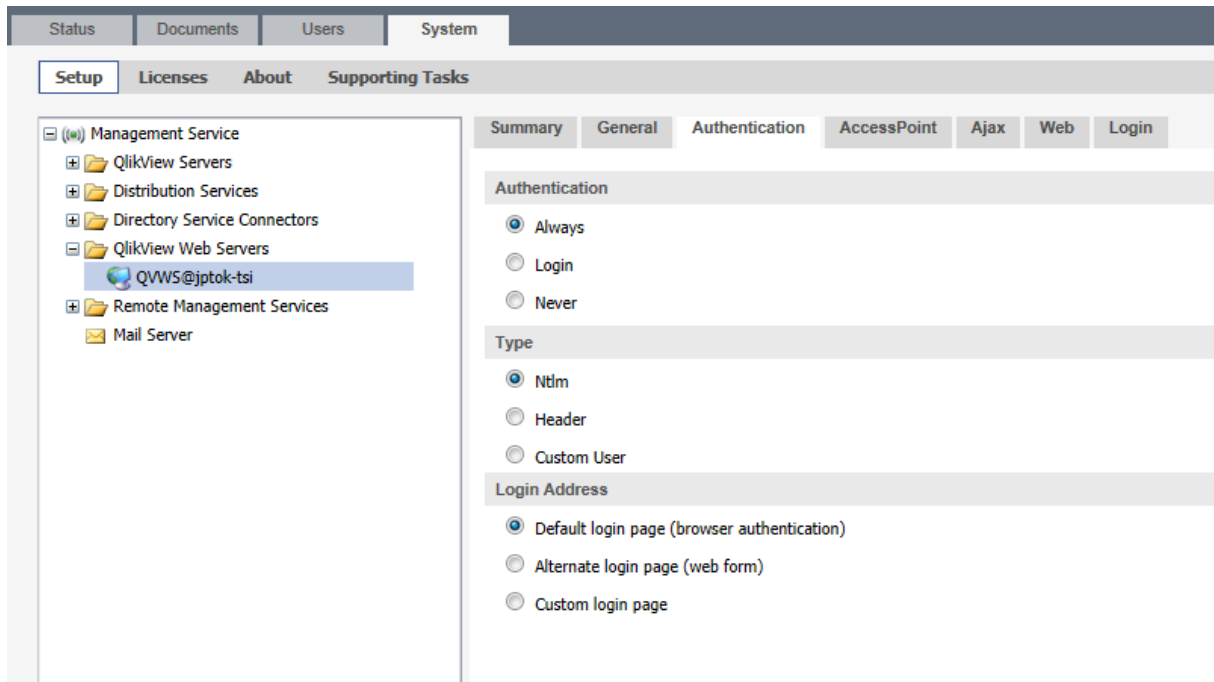
QLIKVIEW WEB SERVER

初期設定では、Web ServerとしてQlikView Web ServerがWeb Serverとしてインストールされます。ユーザー認証や、アクセスポイントとAJAXのファイルのホスティング、クラスター化したQVS環境のロードバランサーとして利用されます。

1- General

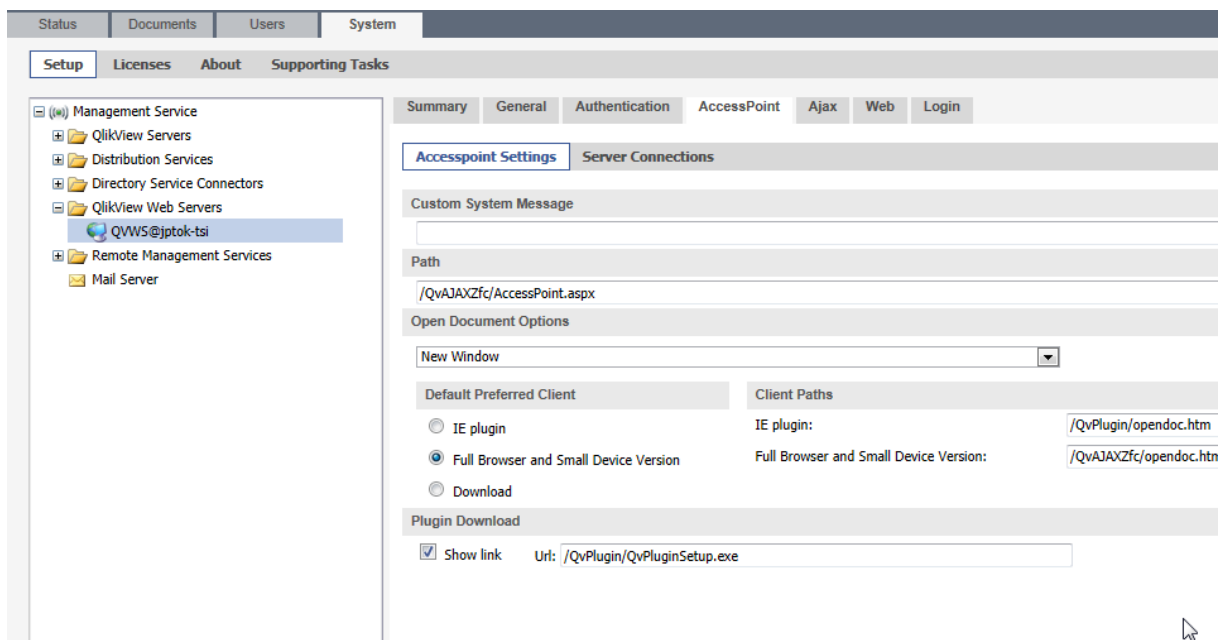
Enable Utilization logging – クラスタ環境では、このフラグをONにするとすべてのQV ServerのUtilizationログが取得されます。





2- Authentication

- a) NTLM : 初期設定は、NTLM (Microsoft の認証プロトコル) が選択されています。
- b) Header : HTTP ヘッダでの認証を行う場合に選択されます。
- c) Custom User : アクセスポイントで入力されたIDとパスワードが認証情報として利用されます。



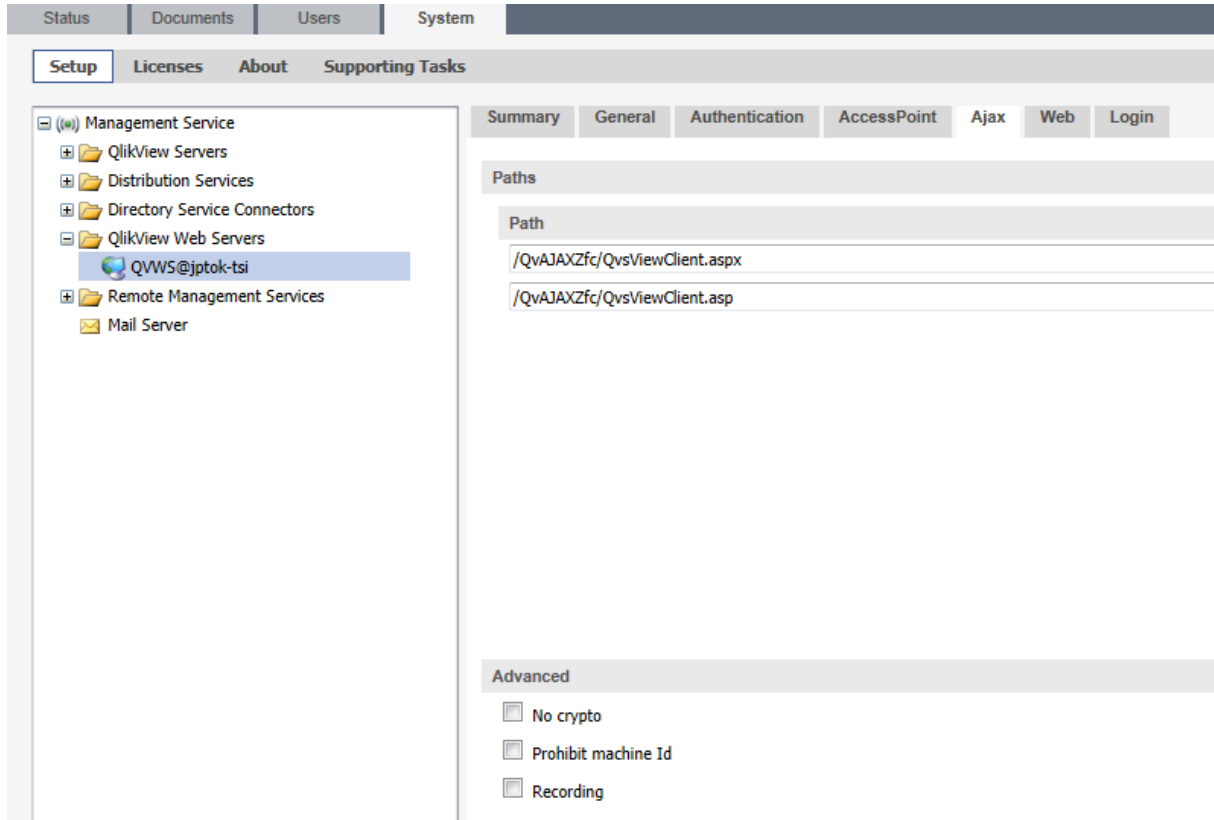
3- AccessPoint

- A) Open document options - QlikViewドキュメントをアクセスアクセスポイントから開く際に、新しいタブを開くか、同一のタブ内で開くかをプルダウンメニューから選択します。

- B) Show Link – Pluginのファイルをクライアントにダウンロードするリンクをアクセスポイントに表示するかどうかを選択します。

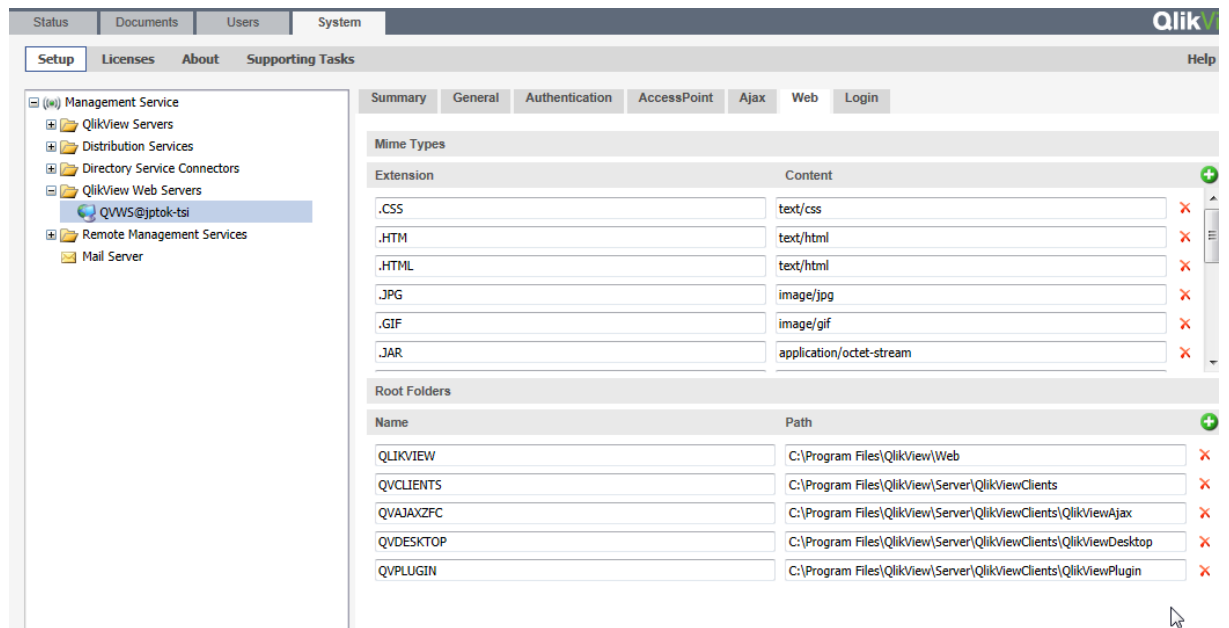
TIPS ** アクセスポイントのロゴを変更したい場合には、

C:\ProgramFiles\QlikView\Web\imagesにあるlogo_main.pngのファイルを差し替えます。



4- AJAX

- A) No crypto – QV web server とQVSの間のトラフィックの暗号化が禁止されます。
- B) Prohibit machine ID – ユーザーがブックマークを使用する際に、マシンIDの送信が禁じられます。これにより匿名ユーザーのブックマークの使用を排除することができます。
- C) Recording – Ajaxのqvpxコールのログ情報が記録されます。



5 - Web

- A) MINE Types - [+]をクリックすると、MINEタイプを追加することができます。
- B) Root Folders - [+]をクリックすると、Root Folderを追加することができます。

TIPS: MIMEタイプとは「タイプ名/サブタイプ名」の形式の文字列で、WEBサーバーとWEBブラウザの間はこのMIMEタイプを用いてデータの形式を指定しています。一般的なMIMEタイプはすでに初期設定の段階で設定されています。

MAILSERVER

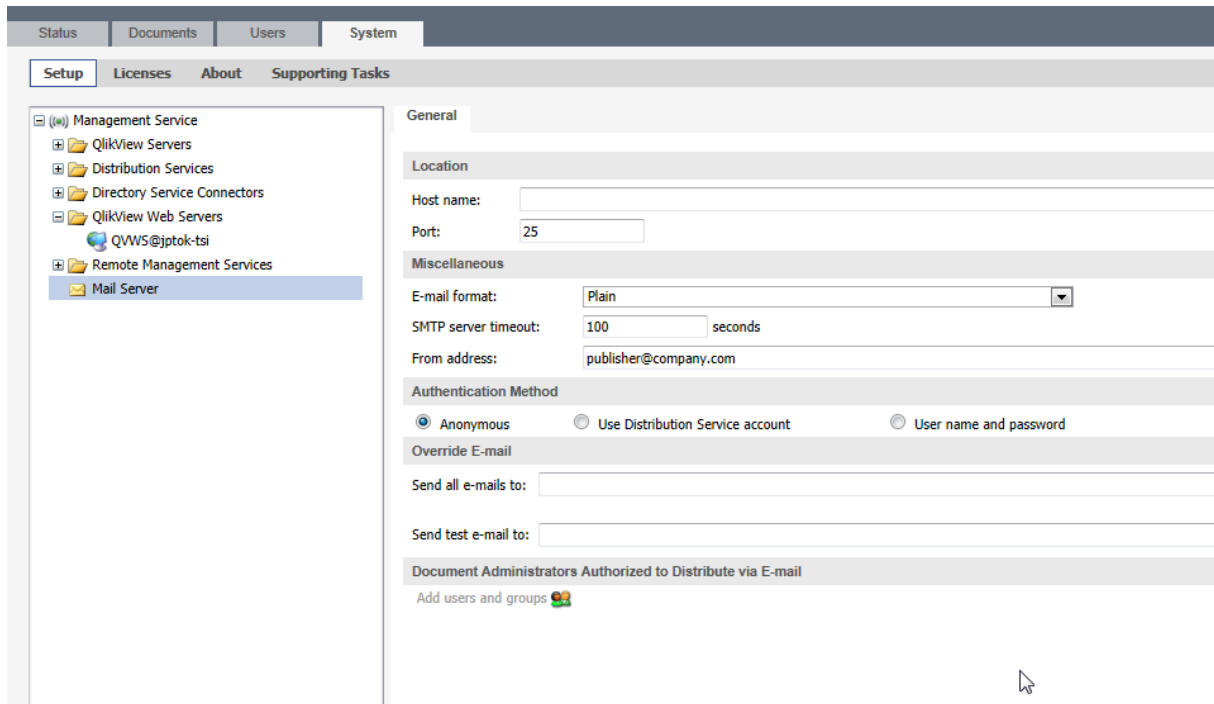
1- Host name - SMTPメールサーバーの場所とホスト名、ポートNoを指定します。

例: qtmailus2.qliktech.com

2- From address - 送信者アドレスを指定します。

3- SMTP server timeout - SMTPサーバーのタイムアウト時間を指定します。

4- Authentication Method - メール送信時にユーザー自身がIDを持っていない場合には、匿名 (Anonymous)を設定します。

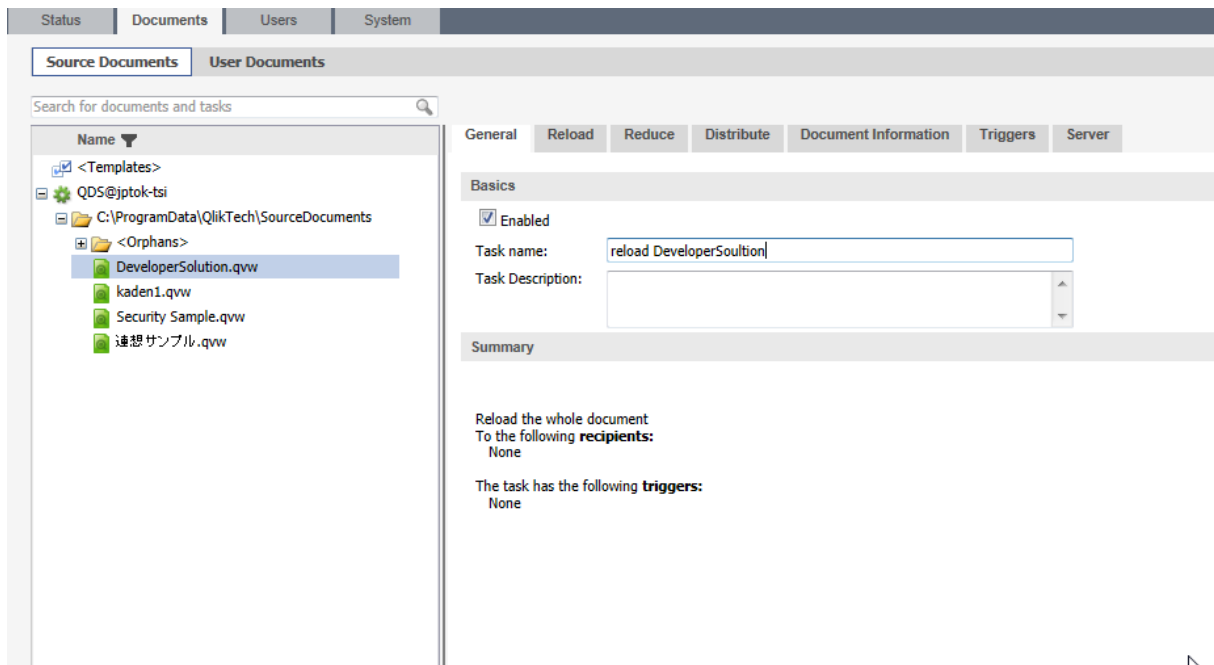


SCHEDULE TASKS

シンプルなりロードタスクのスケジュールは、以下の手順です。

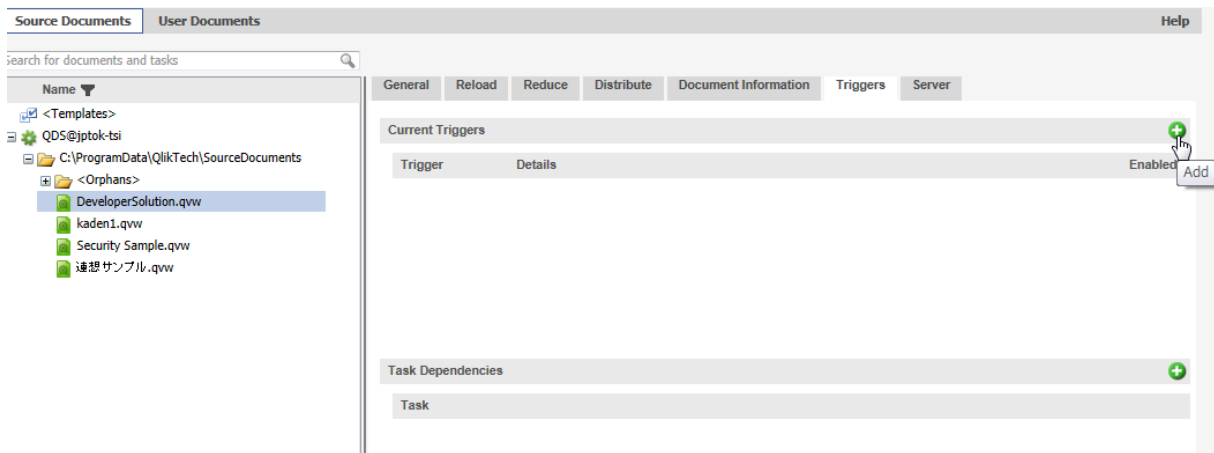
1- General

Enabled のフラグをONにし、タスク名を指定します。



2- Triggers

Current Triggersの[+]ボタンを押します。



以下の画面で、タスクの実行スケジュールを定義します。この設定は、一時間ごとにリロードを行うタスクの設定例です。

Configure Trigger

Start the task

Enabled

Once
 Hourly
 Daily
 Weekly
 Monthly

Start at:

Run every: hour and minutes.

On: Monday Tuesday Wednesday Thursday
 Friday Saturday Sunday

Run only between: and

Max number of executions:

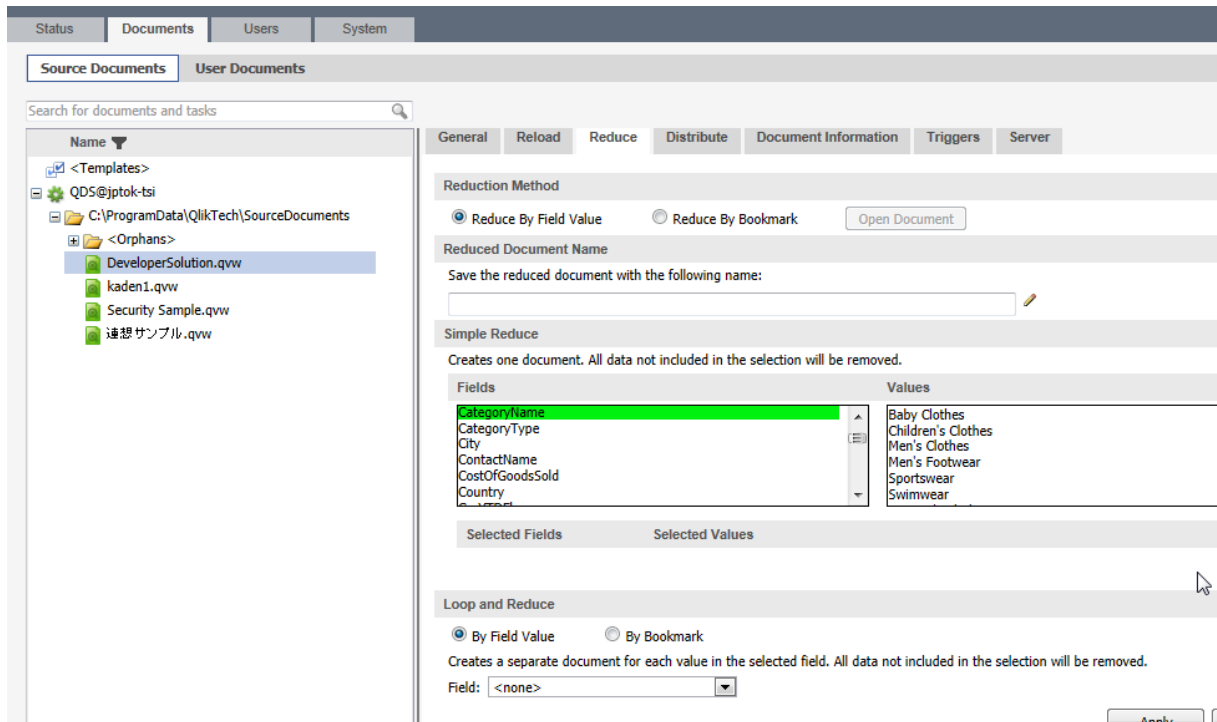
Expire:

3 - Loop & reduce

この機能は、Publisherが有効な場合のみ利用できます。

ドキュメントの項目またはBookmarkに基づいて、ドキュメントの分割を行うことができます。（以下の例は、項目を使用した場合の設定例です。）

Reduction MethodでReduce By Field Valuesを選択し、Open Documentのボタンを押します。



鉛筆アイコンをクリックして、自動ファイル名を作成します。

以下のポップアップ画面が表示されますので、Source Document Nameの項目をクリックし、Select Document Fieldのドロップダウンメニューから、分割に使用する項目名を選択し、OKを押します。テンプレートの項目に、作成したファイル名、Exampleの項目にファイル名の例が表示されます。

Reduced Document Name Template

Click the buttons to create your template.
You can add any text by writing in the Template input box.

Insert Space Between Template Elements

Publisher element

Source Document Name

Task Name

Serial Number

Script Variable Value

DivisionName

\ - _ Space

Date and time

Year - Two digits Year - Four digits

Month Month Text

Day

Year Month Day

Hour (AM/PM) Hour (24h)

Hour Minute

Year Month Day - Hour Minute

Template:

Example: DeveloperSolution Europe.qvw

Loop and ReduceのFieldの項目に、分割に使用する項目名を指定します。

Loop and Reduce

By Field Value By Bookmark

Creates a separate document for each value in the selected field. All data not included in the selection will be removed.

Field:

Distributeタブでは、Field containing recipient information のドロップダウンから、項目名を指定します。Target type では、QV serverを指定します。

General Reload Reduce Distribute Document Information Triggers Server

Manually **Loop Field in Document** File Type Notify

Loop and Distribute

Creates a recipient for each value in the selected field.

Open Document

Field containing recipient information: DivisionName

Check user identity on: No Validation

Destination

Target type: QlikView Server: QVS@jptok-tsi QVData

E-mail In order to do email distribution, configure a mail server in System, Setup, Mail Server.

Folder: 